

ふるさと探訪

第38回 徳蔵寺



広江にある徳蔵寺は、天文年間（1532〜55）に創建されたと伝えられています。創建当時は、現在の場所よりも約650メートル東北の海岸にありました。慶長



元（1596）年の大地震で沈下浸水したため、同九年に現在の地に移築再建されました。

昭和45年3月27日に指定されました。この涅槃図と二幅の曼荼羅図は、法橋栄賢の作と伝えられています。涅槃図は画法がやや装飾的で人物の表情や衣装を写実的に描いており、曼荼羅図は、的確な文様や整齊感あふれる筆法で入念に描いている点が特徴です。残る二つは、市指定の彫刻「織部灯籠」と市指定の書跡「一柳直卿の奉納額」で共に平成2年11月19日に指定されました。織部灯籠の名称は、織部焼きの生みの親として名高い安土桃山時代の大名「古田織部」が考案したことに由来するものです。この灯籠は

南蛮風のデザインで、隠れキリシタンにまつわる伝承も多いことから別名「キリシタン灯籠」とも呼ばれ、全国に300基ほど現存している灯籠の一つです。また「一柳直卿の奉納額」は小松藩三代藩主一柳直卿公が奉納した扁額で、旧東予市内の2社10カ寺に現存する扁額の一つです。

■住所 広江364-1

■駐車場 あり

注：「涅槃像及び両界曼荼羅」は、公開していません。

